

不登校生徒が一步進むための支援

～高等部 ポジティブ行動支援に挑戦～

ポジティブ行動支援を実施するきっかけ

学部研究を通じて、3名の不登校の生徒の事例に取り組むことにした。

3名とも登校日数が少なく、生徒本人を取り巻く環境にも様々な問題を抱えていた。卒業後の社会参加や生活のことを考えて、在学中にできることに取り組みたいと考えた。

登校日数を増やすには、生徒たちが学校に対して少しでも前向きな気持ちになることが必要であると考え、ポジティブ行動支援に取り組むことにした。

R2年度 高等部学部研修予定（1学期）

高等部研究課

研究テーマ「不登校生徒が一步進むための支援」

5月	14日 (木)	学部研修① 不登校生徒が一步進むための支援 ○学部 運動動作2 15:45~ ・研修の概要等 (研修方法, グループ分け, 研修場所等) ・生徒の実態について
	28日 (木)	学部研修② 不登校生徒が一步進むための支援(グループ) ○各グループの教室 15:45~ ・現状報告→改善できそうな問題→アイデアを出し合う
7月	9日 (木)	学部研修③ 不登校生徒が一步進むための支援(学部) ○運動動作2 15:45~ ・2回目の実践や内容の情報交換 ・夏休みの過ごし方や宿題について

↑ 1学期の学部研修日程

事例生徒担任の事前準備

- ① 全体研修で対象生徒の実態を記した資料を基に、実態や困っていることについて説明をする。
- ② お題シートに“もしかしたら克服できるかも？”と思われる問題や課題を記入し、グループの教師に配付しておく。
- ③ グループの教師は（できれば）研修当日までに自身の意見をまとめておく。

学校がスタートし、慌ただしくなりろうな中、大変ご足労おかけします。5/28のグループでの話し合いの前に、具体的な問題や課題を2つ上書き出して頂けたらありがたいです。

事前にグループの先生方に配布して意見を考えていただくことができますので、できれば5/25までにご記入の上、ご提出ください。

参考資料としてアセスメントシートを提供して頂いたため、生徒の実態確認等にご活用ください。

(グループ)
課題点・問題点・等★

クラスメイトとのコミュニケーションがとれない

ゲームを深夜にしている生活リズムが整っていない

登校意欲が低い

親とのトラブルが絶えない

基本的な生活習慣（食事、清潔管理等ができていない

課題の提出ができない。課題プリントをなくしてしまう。

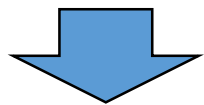
頑張っている先生方にすてきなことがありますように・・・

グループワークの手順

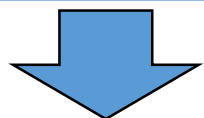
- ① グループ毎に教室に集まる
グループ内での係を決める
進行, 発表, 記録係を決める
(できれば毎回交代する)

記録係の仕事

- ・話し合いの内容の記録
- ・付箋を貼った模造紙の写真撮影
終了後, 所定のフォルダへ保存する



- ① 担任から近況報告 5分
(資料や動画があれば伝わりやすい)



高等部グループ研修の方法


R2 5. 14 研究課

- ☆司会者、記録者(写真、報告用紙記入)を各グループで交代で行ってください
- ★話し合いの内容を簡単にPCで報告用紙に記録してください
- ☆カメラかタブレットで意見の写真を録ってください
- ★記録用紙、写真1, 2の保存場所
イントラ 高等部→一時フォルダ→02学部研修(研究課)→各HRのフォルダへ

今年度のコンサルテーションテーマ 「不登校生徒が一步進むための支援」

グループでの話し合いの方法


題して「のべつまくなし法」

- ① 担任による口頭、資料を使っての実態報告  5分位



- ② 担任が「ひょっとしたら、もしかしたら克服できるかも?」
という感じの問題や課題を提案する(できれば2つ以上) 5分位
例) 学校にいる時間を増やしたい




- ③ 一番取りかかりやすい問題や課題について「こうすればいいかも!」と思った
意見や手立てをどんどん付箋に書き出し貼っていく(直接板書でもOK)
☆出てきた意見の否定はしない(隠れヒントがあるかも?) 
例) 米津玄師からのビデオレターをもらう
→米津玄師を聴きながら課題をしてもよい
☆出た意見全ての写真を撮っておく ※写真1 15分位



- ④ 実現の難しいような意見は消していく
即戦力のありそうな意見は残していく
残った意見がより実践できるように補足(付箋または板書)し
実践方法を決定する。
☆残った意見全ての写真を撮っておく ※写真2 10分位



- ⑤ 担任や教科担任を中心に全体で実践していく
↓
次回の学部研修(全体)で実践報告をする 

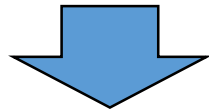
↑ 事前に配布したプリント

②シンキングタイム 15分

取りかかりやすい問題や課題について前向きな意見や手立てをどんどん付箋に書いて貼る

☆出てきた意見を否定しない
(ヒントになることがあるかも?)

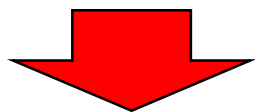
例) 米津玄師からのビデオレターをもらう
→米津玄師を聴きながら課題をしてもよい



③意見をグルーピング 2分

同じような意見を内容別に分ける

例) 学校・家庭環境・医療・趣味
好きなこと・進路etc.



02

AB グループ 5月28日(木) 15:10~16:00

内 容

①担任による口頭、資料を使つての実態報告(5分)

別紙資料①

②担任が“ひょっとしたら、もしかしたら克服できるかも?”という感じの問題や課題を提案(5分)

別紙資料②

- (1) 登校日数を増やす
- (2) 日中活動を増やす(登校も含む)
- (3) 自立に向けた意識付け
- (4) 気候に合わせた服装
- (5) 清潔を心がけ、身だしなみを整える

③一番取りかかりやすい問題や課題についてこうすればいいかも!と思われる意見や手立てをどんどん付箋に書き出し貼っていく。



担任から出された課題について手立てを挙げていく。

(4)(5)に関しては共通する要素もあるため1つに集約

- (1) 登校日数を増やす
 - (2) 日中活動を増やす(登校も含む)
- ・計画登校を行う(半日・週3日等)
 - ・自分で決めた日は必ず登校するようにする。
 - ・登校できたらとにかく褒める、好きな活動を取り入れる。

2AB グループ 5月28日(木) 15:10 ~ 16:00

内 容

①本生徒に関する実態を報告・共通理解

② ③担任からの課題点・問題点等についての案

- ・生活経験を豊かにするために学校でできることは何か?
- ・生活用品の使用方法、調理への経験
- ・こだわりの強い生徒への接し方、指導法があれば
- ・お母さんへのアプローチ方法や性教育で取り組めること
- ・クラスメイトとコミュニケーションをとるためのツール

④付箋を利用したグルーピング(テーマ 自尊感情を高めるには?)

<他者から認められる>

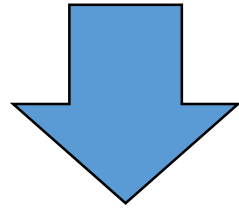


- ・王様デー、リーダーデーを設定する(誕生日等)
- ・自分のできたことや良いところを書き出す
- ・自分のしたことや成果等を見てもらい、他者から褒められる

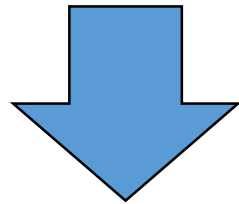
1回目
グループワーク
の記録

④意見の精選 10分

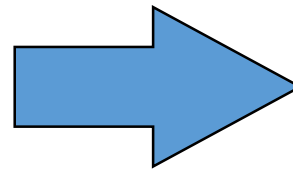
実現の難しいような意見は消す
すぐに取り組みそうな意見は
残し，さらに具体的な実践方法に
仕上げる



⑤担任や教科担任を中心に実践



⑥次回の学部全体研修で実践
内容を共通理解をする。



02

全体研修：不登校生徒について
情報交換・共通理解

7月9日（木）
16:00 ~ 16:30

内 容 5 / 2 8 の話合いの内容と現状報告
※各グループ毎に資料あり

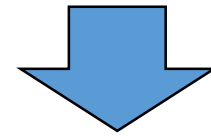
- Aさん
 - ・課題内容の見直しで成果あり
 - ・6/5 ケース会→福祉とのつながり
 - ・家族関係の改善に向けて
- Bさん
 - ・分散登校終了後，登校が減る→7月やっと登校上向き，今後，関係機関も入る予定
 - ・「自分メーター」の活用
- Cさん
 - ・登校日数増えている，表情よい
 - ・就業体験の様子
 - ・卒業後の生活に向けて，相談支援と連携中

↑ 学部全体研修の記録

高等部全体研修（情報共有）

①研修担当より，研修の進捗状況報告

②各担任から，生徒の実態、現状報告
動画や資料を用いての報告
グループワークで決めた実践以外にも、
本人得意分野を生かしたり，クラスメ
ートとビデオレターの交換等ユニーク
で効果的な取り組みが行われていた。



翌週の学部研修でこれらの取り組みを
学部全体で共有し，生徒の小さな変化
や成長を共有することができた。



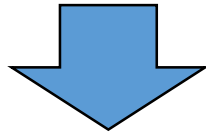
コンサルテーション

- ① ポジティブ行動支援について
- ② 効果的な話し合いの方法について
- ③ 短期目標（スモールステップ）の見つけ方
- ④ 演習 ○の行動（できていること）を見つけよう



コンサルテーション まとめ①

- 生徒のできていること積極的に見つける
- できていることを無理矢理にでも見つける
- グループ・学部で共有する



- できていることをベースに短期目標にする
- 日々のプチスモールステップを行う
- 生徒が「やってよかったなあ」と思う成功体験

高等部 研究課

コンサルテーション 9/3 まとめ

※お時間のある時に10月22日までに読んでみてください

○ SWPBS とは
ポジティブ行動支援とは、子どもの×の行動ではなく、○の行動を増やし、広げていく支援である。子どもの成功体験をベースとし、特別なことではなく日頃からしている支援であり、できることをどんどん増やし、問題行動を減らしていくものである。
学校全体で考えるものである。みんなで子どものことを考えていくとき、データを使い、システム化することが大切である。
高等部では生活年齢に合わせて○の行動をエモい行動を言うことにします。
(エモいとは広義でエモーショナル、心の躍動、感情が揺さぶられる的な意味)

○ 効果的な話し合いの設け方
話し合いの機会を設けるときに、①続けられる形にすること、②時間を決めて必ず終わらせることが大事である。月1回話し合いの機会をもち、1時間のうちグループ協議を40分、まとめを20分と決めて継続していく。
さらに、時間から考えていく方が話し合いがしやすく、話し合いを記録に残すことが短時間で終わるコツである。ぱっと見てわかる記録-見える化は共有の時間が短縮でき、短時間で効果的な話し合いができる。

○ 短期目標（スモールステップ）の見つけ方
子どものここまでできるというところをチームで見つけて共有し、それを糸口として広げていく。今できていることをベースに短期目標（スモールステップ）を考えていく。
テーマをしなければ十分話し合いができる。はじめに、何ができているかを担任だけでなく、ここはできているということを積極的に見つけていくことが大切である。「今はここまでできているね。じゃあ、次に何をしようか。」というアイデアもたくさん出てくるはず。そして、目の前の生徒に「できたね。」と伝えることやチームでできたことを共有したり、チームで喜んだりしていくことが大切である。この話し合いを継続していく必要がある。
また、スモールステップを考えるときに、数値（時間・回数など）になっているとわかりやすいし、数値目標で設定すると考えやすい。そのために、子どもの好きな活動や得意な活動、できる活動を取り入れながら情報を集める必要がある。

- 今ここまでできていることを探して、次のステップを考える。
- できていることを無理矢理にでも見つけて広げていく。
- 望ましい行動をしたら、ほめる。子どもがやってよかったなあという成功体験が大切。
- 日々のプチスモールステップを考えていく。

○ 話し合いをするときのポイント
アイデアをいっぱい出す → 担任の先生のヒントになればよい
多くの先生方の多くの経験からアイデアを出すことが大事。
不登校生との家での活動と学校での活動のバランスが大事だが、いろいろ試さないと思えない。これが見えたらチャンスなので、どんどん広げてほしい。
頑張っているということを親と共有することが大切である。

↑ コンサルテーション後に要点をまとめた資料を作成し、フィードバックを行った

コンサルテーション まとめ②

効果的な話し合いの設け方

- ① 継続可能なスタイルを守る
- ② 決められた時間に必ず終わる
月1回 話し合い
グループ協議を40分
まとめを20分と決めて継続していく
- ③ 3グループが1つの部屋で行う
- ④ 一目見て分かる記録にして共有
や話し合いの時間を短縮する

R2年度 高等部学部研修予定（2学期）		
高等部研究課		
「不登校生徒が一步進むための支援」		
9月	3日（木）	学部研修④ 中・高コンサルテーション（オンライン） ○15:45～16:50
	10日（木）	学部研修⑤ 不登校生徒が一步進むための支援 ○コンサルテーションでの情報共有
10月	22日（木）	学部研修⑦ 不登校生徒が一步進むための支援（学部） <u>エモイ行動を増やしていこう</u> グループ討議 ○運動動作2 15:45～
11月	12日（木）	学部研修⑧ 不登校生徒が一步進むための支援（学部） <u>エモイ行動を増やしていこう</u> グループ討議 ○運動動作2 15:45～
12月	3日（木） 最終報告	学部研修⑨ 最終報告 不登校生徒が一步進むための支援（学部） ○運動動作2 15:45～

↑ 2学期の学部研修日程

2学期の取り組み ～助言をもとに～

- ①グループ内での係を決める 3分
グループ内での司会、発表、記録係を決める。
(できれば毎回交代する。)

記録係の仕事

- ・話し合いの内容の記録
- ・付箋を貼った模造紙の写真撮影終了後、所定のイントラのフォルダへ保存

※変更点

- ・別々の教室に集まる→1つの教室に
- ・進行→全体の進行係がタイマーを使って3グループ同時進行とする
- ・見通しが持てるように進行手順を提示



グループワークの様子



①担任より○の行動を発表 10分

- ・ 1学期に話し合った実践の成功例etc....
- ・ 行動記録でよかった内容
- ・ コンサルテーションで褒められたこと
- ・ 最近の○エピソード



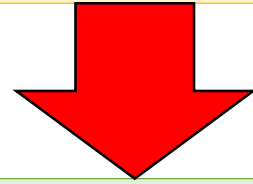
②①の行動をもっと○にするためにアイデアを付箋に記入 20分

- ・ できるだけ具体的に
- ・ 出た意見を否定しない
- ・ 思いついたことを→可能性の拡大
- ・ もし①で何もなければみんなで○の行動を考える



③意見のグルーピング 15分

- ・ 同じような意見は取り組みやすいのかも？
- ・ すぐに実践できないような意見はすぐ実行できるように変更するか後回しにする
- ・ 残った意見を厳選し，まとめる



④③でまとめた意見をグループ毎に 発表 1グループ3分

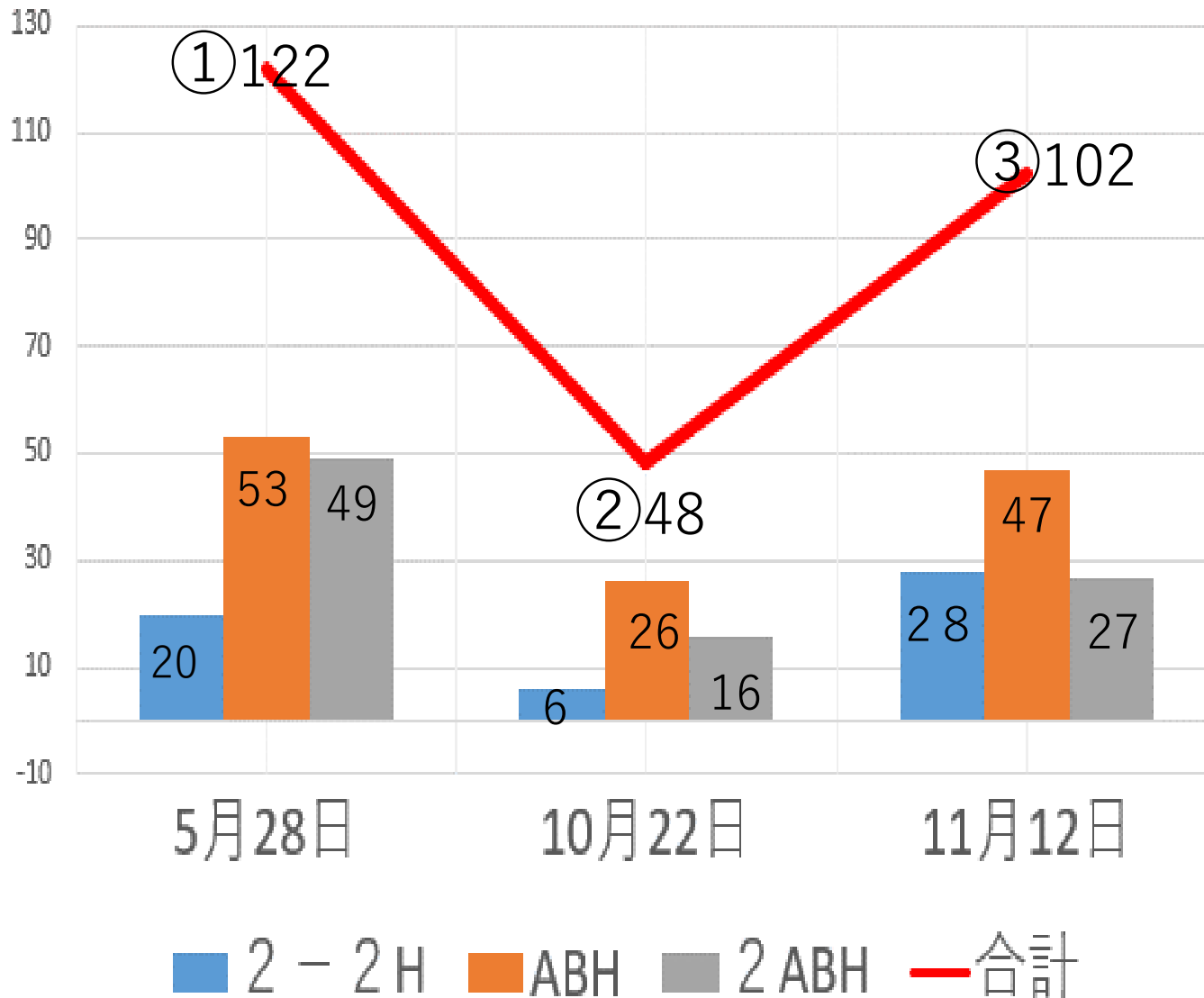
- ・ 他のグループの発表でいいことを
思いついた教師は発表する
時間がなければ研修後に担任に伝える



発表の様子

①～④までの流れを繰り返し継続する

付箋の数の変化



① 5月28日 122枚
家庭や福祉との連携等，学校外での支援が必要等の意見が多かった

～コンサルテーション後～

② 10月22日 48枚
各クラスでの支援が順調で継続支援の意見が多かった

③ 11月12日 102枚
3事例共に，登校日数，○の行動が激減した。そこで，担任教師が**発想を転換し**

コンサルテーションでの演習，○の行動（できていること）を見つけようの発想

○の行動を見つけることができた

コンサルテーションの成果

- 高等部の全教員がポジティブな行動支援の考え方を共有し，事例生徒の実態等の共通理解ができた。
- 限られた時間での活発な意見交換や協議を行う研修スタイルを実行することができた。
- 動画や写真で事例生徒の○の行動を共通理解し，中心となって実践した担任や生徒，協力者をたたえ，明るい雰囲気話し合うことができるようになった。
- 各生徒の話合いでは，逆転の発想ともいえるユニークな意見がたくさん出た。

今後の課題

- 事前の資料配付や生徒の実態を理解しやすくする報告の仕方などを工夫することや出される意見を肯定的に受け止めるルールの徹底
- 生徒の行動や発言を常に冷静に観察し，そこからヒントを得る
- 生徒や家庭環境等のマイナス部分ばかり注目するのではなく，指導につながる○の行動を見つけることを大切にする
- 今回の研修スタイルをベースにして，学部で気になる生徒への指導や支援を考え，体制を整えるための取組とした研修の継続を行う